

# 藤田医科大学病院 救急総合内科

## 病院&部署名（研修プログラム名）・指導医名

藤田医科大学病院 救急総合内科

岩田充永（主任教授） 植西憲達（ICU担当） 浅井幹一（地域・家庭医療担当）

寺澤晃彦（GIM・臨床研究担当）

大杉泰弘 三島亜希 神宮司成弘 日比野将也 小川広晃 都築誠一郎

## 住所・連絡先

〒470-1101 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-9-8 救急総合内科医局

医局直通：0562-93-2355

日比野：nasu.kuri.0509@gmail.com

川内（秘書）：kawauchikei@gmail.com

ウェブサイト（当科）：<https://fujita-kyunai.jp/>

（病院）：<https://hospital.fujita-hu.ac.jp/>



【当科ホームページQRコード】

## 診療科名 救急総合内科

## 研修プログラムの目標としている医師像

総合内科・救急医療・集中治療・外来と、どこに行っても、どんなセッティングでもある程度のパフォーマンスを発揮できる医師

## スタッフ人数

34名（男性24人、女性10名）

## 後期研修医の人数

後期研修医の人数 9名（男性7名、女性2名）

## 当直

ER当直：4-6回/月（うち土日祝日1回）（当直明け：午前中に帰宅・コールフリー）

ICU当直：4-6回/月（うち土日祝日1回）（当直明け：午前中に帰宅・コールフリー）

病棟オンコール：約月3回（うち土日祝日0～1回）（オンコール明けは通常勤務）

※ER当直とICU当直は担当が分かれており1人あたり合計4-6回/月の当直

## 診療科独自の病床数

総合内科病棟部門：常時40名ほどの患者を3チームで担当。ホーム病棟あり

救命ICU部門：8床(Closed ICU)

## 勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

- ・ 困難症例カンファレンス（隔週月曜日、PM3-4時）：総合内科病棟部門で担当している複雑な病態の症例を当科病院教授である植西先生のファシリテートのもとでディスカッションする。病歴、身体所見から鑑別を進め病態生理を深く学ぶことができる。

### 【困難症例カンファレンスの様子】



- ブラッシュアップ勉強会（隔週月曜日、午後18時-19時）：後期研修医向けのハイレベルな勉強会。当科の教授陣やスタッフが持ち回りで話題を提供し、病態生理や日常診療のピットフォールなどのレクチャーを受ける。
- GIM勉強会（毎週月曜日、午後2-3時）：総合内科病棟において有用な情報を持ち回りで発表し、知識の確認を行う。
- 抄読会（毎週火曜日、午後2-3時）：RCTやレビューを中心に、最新の文献を持ち回りで発表する。
- Dr植西レクチャー（毎週火曜日、午後5-6時）：ドクターGにも出演したことのある植西先生によるレクチャー。呼吸、循環、感染症、内分泌など多岐にわたる分野においてエビデンスを重視した講義。

## 具体的な研修・業務内容の紹介

当科の特徴はなんと言っても「generalist育成に最適な幅広いフィールドを持っていること」です。救急外来（ER）、集中治療（ICU）、総合内科病棟（GIM）、初診外来と幅広いフィールドを守備範囲とし、あらゆる病態に対処できる内科医、プライマリ・ケア医を育成します。後期研修医は各部門を数ヶ月ごとにローテートし、様々な時間軸に対応する能力を身につけていきます。

①ER部門：大学病院でありながら救命救急センターとして軽症から重症まで幅広く患者の受け入れを行っており、年間25,000人程度の救急外来受診患者、救急車搬送患者数は年々増加しており年間1万台近くの救急搬送を受け入れています。内因性疾患のみならず重症外傷や熱傷、精神科救急、小児救急など症例は多岐に渡りcommon diseaseから重症まで幅



広く症例を経験することが可能です。「救急医は単なる振り分け作業」ではなく、病態の把握と診断、適切な初期治療を行うことを心がけています。ERには24時間当科の医師を配属しており上級医とディスカッションしながら診療にあたり、安全が確保されています。我々が目指すのは「内科に強い救急医」や「救急に強い内科医」です。「あの先生が来てくれればもう安心だ」という医師を目指して日々研

鑽を積んでいます。

②ICU部門：Closed ICUであり、総合内科専門医・集中治療専門医を併せ持つ当科スタッフがリーダーとなり、当科スタッフ(集中治療専門医・総合内科専門医・救急専門医・外科専門医・循環器専門医など有資格者多数)・後期研修医でチームを構成しています。また救急科(外傷専門医・整形外科専門医)も診療に加わっており、直接指導を受けることも容易です。ICUに入室する症例を救命するには迅速かつ適切な診断・根治的治療・それをサポートする全身管理が求められ、それら全てにおいて教育を受けることが可能です。

Problem listはもちろん、By systemアプローチに基づいた症例の評価・治療方針の決定をベッドサイドで行い、教育を受けることができます。また熟練スタッフとともにICUに必要な検査・手技を学ぶ機会も豊富にあります。



③GIM部門：総合診療医の中心的役割である一般病棟管理をチーム診療で行っています。後期研修医はチームリーダーのサポートを受けながら担当医として診断・治療・ソーシャルワーキングまで一連の患者マネジメントを抜けなく独自で行う力を養います。また他職種と連携した病棟マネジメントを実践する能力を身につけていきます。疾患は幅広く、肺炎や尿路感染症

といったcommon diseaseはもちろん、不明熱や意図しない体重減少などいろんな病院で診断がつかず紹介状を持って我々を訪れる方も多くいらっしゃいます。総合内科医として複数の臓器システムと患者背景を統合し、「一人の病んだ患者さん全体」として診療に当たることで全人的な医療を提



供する能力を身につけます。

#### ④その他

1) 総合診療医の育成：藤田医科大学総合診療・家庭医療プログラムの研修施設として位置付けられている当院では、当科のGIM部門を3-6ヶ月間ローテーションすることで、病歴聴取、身体診察、診断推論、病態生理の把握といった総合診療医に必要な能力を身につけます。また病棟業務、外来業務を行う中で患者中心の医療、ケアの継続性、家族思考ケアなどコアコンピテンシーについても学習します。

2) 知識：On the Jobで身につけるべき知識は現場で上級医と学び、その確認とまとめをチームミーティングやカンファレンスを通じて行います。その他にも前述のような多くのカンファレンス・勉強会などのOff the Jobでの学びの機会を設けています。これらは、全体のスキル底上げに繋がる活動ですので、業務によってなかなか出席できないなどの問題を科全体で改善しています。

3) 研究：大学病院・研究機関の診療科として研究・発表・論文作成は責務です。現在いくつかの臨床研究も進んでおり、またメタアナリシス研究などの手法での発信に積極的に取り組んでいます。（今年度の主な実績：Nuclear Imaging for Classic Fever of Unknown Origin: Meta-Analysis. J Nucl Med. 2016 Jun 23.）

4) 発信力：院内勉強会はもちろん、院外でも“愛知GIMカンファレンス（2月に1回）”などのオープンな勉強会の開催、雑誌などでの執筆活動をはじめとして対外活動を積極的に行っています。

5) 資格取得：総合内科専門医・救急科専門医・集中治療専門医の取得が可能です。前述のように研究により力を入れてきていますので大学院進学、学位取得も可能です。

## その他自由記載

ER、ICU、GIMの3領域を管理している大学病院は全国でも数少なく、「豊富な症例を経験でき」、「いろんなセッティングで」、「優秀な指導医のもとで」、「安全に」教育を受けることができることが当科のウリです。

当科で研修を積むことで、どこに行っても、どんなセッティングでも、そこそこのパフォーマンスを発揮できる、いわゆる「使い勝手の良い医師」へと成長することができます。今の日本では、一人の医師が臓器に特化することなく一人の患者をマネジメントする能力が求められています。当科はそういった医師を育成するのに最適な場所だと自信を持って言えます。

また、プライベートも重要視しています。きちんと休みは確保していますし、男性も育休を取得しています（これまでに4名）。家庭やプライベート、自分のことを大切にしながら、楽しく学びましょう！

facebookページ <https://www.facebook.com/generalinternal.criticalcare.emergency.medicine/>

